

## 地方シンクタンク協議会『論文アワード2021』総務大臣賞を受賞 ～ 「奈良県観光の現状とポストコロナの展望」が最優秀論文に選定される ～

今般、一般財団法人南都経済研究所（理事長 西川 恵造）は、全国のシンクタンク50機関が加盟する地方シンクタンク協議会『論文アワード2021』において、当研究所 秋山利隆主任研究員の論文「奈良県観光の現状とポストコロナの展望―統計的手法を活用したアプローチ」が最優秀論文に選ばれ、「総務大臣賞」（最優秀賞）を受賞いたしました。

論文アワードは地方シンクタンク協議会会員相互の活動成果の発表・提言の発信を目的とし、2013年度より毎年開催されています。『論文アワード2021』の募集テーマは「ポストコロナの地域戦略」で、コロナ禍の影響により地域経済が様々な分野で深刻な打撃を受けている現状を踏まえ、地域シンクタンカーの視点から、コロナ禍後の未来展望等を発信するものです。今回受賞した論文は、政府統計や民間調査をもとに作成したデータベースを、多変量解析<sup>※</sup>などの統計的手法を活用して分析し、ポストコロナの奈良県観光について独自の観点から斬新な提言を行ったことが評価されました。

今回の受賞により、当研究所にとって3年連続で研究員が同アワードを受賞することとなります。今後ともこれまで蓄積してきた知見やノウハウ、さらには各研究員の専門性を活用し、地域経済に関する有用な情報発信に努めてまいります。

※多変量解析：複数の変数に関するデータをもとに、これらの変数間の相互関連を分析する統計的技法の総称。

### ■地方シンクタンク協議会

1985年4月、地域に根ざした課題の調査研究や提言活動に携わるシンクタンクが(公財)NIRA 総合研究開発機構との密接な連携をもとに、地域における政策研究の質的向上をはかり、地域の自立的発展に寄与することを目的に設立された任意団体。会員数 50 機関。

### ■当研究所研究員の受賞歴

『論文アワード2019』佳 作 （太田宣志副主任研究員）

食品ロスの削減に向けて～地域における SDGs 実践の小さな一歩として～

『論文アワード2020』優秀賞 （太田宣志副主任研究員）

奈良県内企業における新型コロナウイルス感染症の影響と今後の方向性

～新型コロナウイルス感染症が企業経営に及ぼす影響調査【2020年4～6月期】より～

『論文アワード2021』最優秀賞（秋山利隆主任研究員）

奈良県観光の現状とポストコロナの展望 ―統計的手法を活用したアプローチ

### 【添付資料】

受賞論文、論文の概要

なお、12月23日（木）14時からオンライン開催される「第34回地方シンクタンクフォーラム」（主催：地方シンクタンク協議会、後援：内閣府、(公財)NIRA総合研究開発機構、YouTube Live 配信）にて、受賞者がパネルディスカッションと表彰式に参加いたします。同フォーラムへの参加申込（オンライン視聴）は地方シンクタンク協議会ホームページ <http://www.think-t.gr.jp/forum2021.html> から行ってください（どなたでもご参加いただけます／参加無料）。

以上

【本件に関するお問合せ先：主任研究員 秋山 TEL：0742-72-0711 FAX：0742-72-1567】